

JANNET 20年の歩み

障害分野における民間団体ネットワークの活動の記録

1993－2013

JANNET
(障害分野NGO連絡会)

2013年

目 次

挨拶.....	2
会長.....	2
初代会長.....	3
現役員.....	4～9
前役員、事務局長.....	10
 協力者からのメッセージ.....	 11
大橋 正明氏（特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター（JANIC）理事長）.....	11
マヤ・トーマス氏（「障害、CBR とインクルーシブ開発」編集長）.....	12
ノーマン・カーン氏（開発における障害センター（CDD）理事長）.....	13
アルビナ・シャンカー氏（モビリティ・インディア所長）.....	14
熊田 芳江氏（社会福祉法人 こころん施設長）.....	15
 JANNET の活動記録.....	 16
研修会・研究会・共催イベント.....	16～22
JANNET 刊行物一覧.....	23
加盟団体会員リスト.....	24

この冊子は JANNET メールマガジン 100 号記念号をもとに作成しました。

松井 亮輔・JANNET 会長

● JANNET 設立 20 周年を迎えて



障害分野 NGO 連絡会（JANNET）が 1993 年 12 月に設立されて今年で 20 周年目を迎えます。設立以来、地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）を主なテーマに各種研修会や研究会等を行ってきました。

この 20 年間の障害分野での画期的なできごとは、2006 年 12 月国連総会で障害者権利条約が採択され、2008 年 5 月には発効したことです。この 8 月 10 日現在 133 カ国が同条約を批准し、日本政府もこの 6 月に「障害者差別解消法」が制定されたことなどから、近い将来批准することになると思われます。

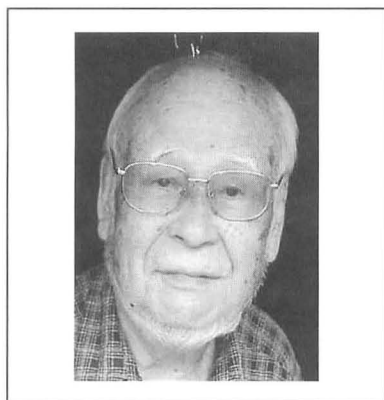
同条約に象徴されるように、従来支援の客体とされてきた障害のある人びとが、権利の主体となったこと、それに伴って国際協力においても協力の受け手だけでなく、その担い手としても位置づけられるようになったことは、きわめて大きな変化といえます。その変化をさらに推進するためにも、「国際協力が、障害者にとってインクルーシブかつアクセシブルであることを確保すること」（同条約第 32 条）が重要です。2015 年に最終年を迎えるミレニアム開発目標（MDGs）以降の取組みに障害インクルーシブ開発の視点を反映すべく、今年 9 月 23 日には国連総会の一部として、「障害と開発に関するハイレベル会合」が開催されました。

そうした国際的動向を踏まえ、2015 年 9 月には日本サイドでは、JANNET と日本障害者リハビリテーション協会が中心となって、CBR アジア太平洋ネットワーク会議を開催すべく準備をはじめています。同会議は、障害インクルーシブな地域づくりの一層の前進に寄与するとともに、つぎの 20 年に向けて JANNET の再活性化をはかるうえでも、大変意義のある事業と思われますので、是非同会議が成功するよう、会員の皆様の積極的なご協力とご支援をお願いいたします。

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会副会長／JANNET 会長

山口 薫・JANNET 初代会長

● お祝いの言葉



JANNET 創立 20 周年に当たり、創立に微力を尽くした者の一人として心からお祝いを申し上げますと共に、この機会にメールマガジンの、「20 年の歩み」を回顧し未来を展望するという素晴らしい企画に胸を躍らせながら期待しています。

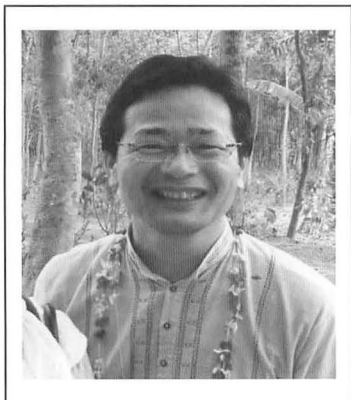
障害の種別を超えて民間の関係組織が一つにまとまって活動する JANNET が、やがて国を動かすことにつながるという確信は今でも揺るぎませんが、これまでの 20 年の歩みは決して順風満帆ではありませんでしたし、これからも決して平坦ではないであろうことは、2006 年 12 月に国連総会で採択された「障害のある人たちの権利に関する条約」が、当時の高村外務大臣が署名はしたものの、いまだに批准されないまま放置されていること一つを考えても明らかであります。

少子高齢化社会を迎え、障害のある人／子どもへの適切な対応という困難な課題解決に向けて JANNET が、20 年の歩みを回顧することによって、改めて新しい展望を切り開いて下さることを切に願ってやみません。

初代会長 山口 薫

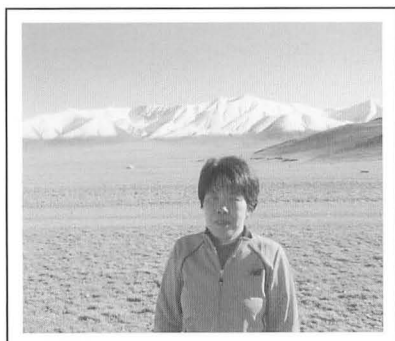
現役員

- 今西 浩明 NPO 法人 ワールド・ビジョン・ジャパン/JANNET 研修・研究委員会 委員長



JANNET 発足 20 周年おめでとうございます。ポスト MDGs を検討する時期を迎え、障害者の主流化が重要になってくる中で、益々 JANNET の活躍が必要になってくることは明らかなです。次の 10 年間での益々の発展をお祈りします。

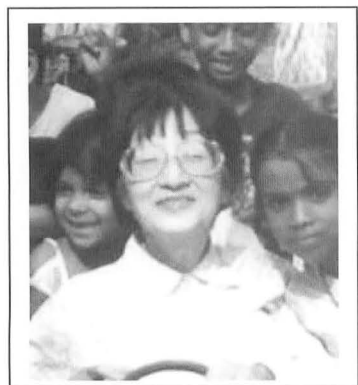
- 田畑 美智子 (社福) 日本盲人会連合/JANNET 財務・組織委員会 委員長



世界盲人連合に関わるようになり 8 年になります。同アジア太平洋地域協議会での活動、デンマーク政府開発援助によるプロジェクト、そしてジャネットの活動や皆さんの経験や知識から、本当に色々なことを学んでいます。こうした経験を活かして、今以上に世界中の視覚障害者と前に進んで行きたいと願っています。

- 中西 由起子 アジア・ディスアビリティ・インスティテート (ADI) /

JANNET 広報・啓発委員会 委員長



アジアでも障害者権利条約の批准国が増え、障害が開発問題として認識されるなど、JANNET 設立時とは障害に対する環境は変化しています。

支援する・されるの関係から、障害者は開発のパートナーとなってきています。そのためにどのように障害者の権利を推進していくのか、どのように合理的配慮を提供するかなど、JANNET で考えていけたらと思います。

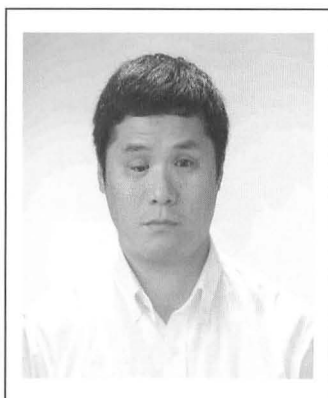
現役員(つづき)

- 清水 香子 (公財) アジア保健研修財団 (AHI) / JANNET 研修・研究委員会 委員



JANNET とのかかわり、そしてそこでの様々な出会いが、私、そして私が所属する AHI が、地域づくりと障害のあり方に向き合う機会を作り、広げていることを実感しています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 青松 利明 国際視覚障害者交流・協力ネットワーク (JIBEC) / JANNET 広報・啓発委員会 委員



JANNET の 20 周年を心からうれしく思います。私はメールマガジンの編集以外には会に対してあまり貢献できておらず、いつも学ばせていただくことばかりです。しかし、今後も微力ながらご協力させていただければと思っております。

- 宮本 一郎 (一財) 全日本ろうあ連盟 / JANNET 広報・啓発委員会 委員



JANNET20 周年を心よりお喜び申し上げますと共に、情報提供などに努めてこられたことに対して敬意を表します。障害別の組織運動から、これからは障害者を含む社会的弱者が互いに協力支援し合うことが益々必要になります。社会状況に合わせて、JANNET の果たす役割が大きくなっていくことと思います。今後の発展を祈念いたします。

現役員(つづき)

- 福山 博 (社福) 東京・ヘレンケラー協会/JANNET 財務・組織委員会 委員



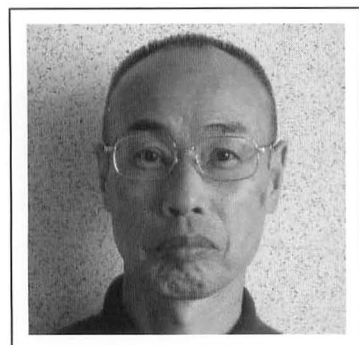
二昔前ネパールの視覚障害教員は数人に過ぎませんでしたが、現在は 400 人を超えています。20 年とは、あどけなかった視覚障害児が精悍な青年教師となり、同じ障害で悩む同胞を励まし、力づけるのに十分な時間だったのです。

- 野際 紗綾子 認定 NPO 法人 難民を助ける会/JANNET 財務・組織委員会 副委員長



このたび、JANNET が設立 20 周年を迎えることを、大変嬉しく存じます。障害の有無にかかわらず、すべての人にとって優しい社会の実現に向けて、より一層の貢献ができるよう、今後のさらなる発展を心から願っております。

- 清水 順市 (一社) 日本作業療法士協会/JANNET 研修・研究委員会 委員



発足 20 周年おめでとうございます。私たち日本作業療法士協会は、障害者や高齢者が幅広い活動をできるようにお手伝いします。当会は、「誰もが地域で生活ができるように」と活動を推進しています。貴会と協力しあって活動を広げていきましょう。

現役員(つづき)

- 河野 眞 (一社) 日本作業療法士協会/JANNET 研修・研究委員会 委員



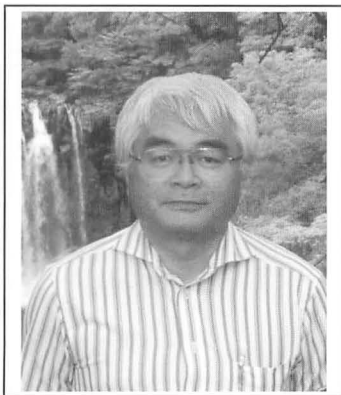
障害分野の国際協力を推進した JANNET の 20 年に敬意を表します。貧困を初め、分野横断的取組みの必要性が高まるこれからの時代、JANNET のように明確な強みを持つ組織こそ存在感を増すはずと期待しています。

- 原田 潔 (公財) 日本障害者リハビリテーション協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



これまでの 20 年で積み重ねてきた、さまざまな人たちのつながりを思い起こします。新アジア太平洋障害者の十年もスタートし、新たな開発目標に向けた議論も進められる中、今後も共に取り組みを進めていきましょう！

- 谷島 邦雄 NPO 法人 日本ポーターゲージ協会/JANNET 財務・組織委員会 委員



JANNET が結成されて 20 周年とのこと、心よりお祝い申し上げます。私自身は、活動に参加させていただいてからまだ日は浅いのですが、障害分野の団体が手を携えていくことの大切さを痛感しています。今後の益々の発展を祈念いたします。

現役員(つづき)

- 田口 順子 (公社) 日本理学療法士協会/JANNET 研修・研究委員会 委員



メールマガジンの発行がついに 100 号、これまでにご尽力なされた中西由起子広報委員長をはじめ委員の方々に感謝と敬意を表します。紙面による情報提供も大切ですが、JANNET がいち早くメールによる広報活動を取り入れたことによって、JANNET のメインテーマ、CBR と障害、開発に対する活動の共通理解が深まったと感じています。英語版メールマガジンの発行も JANNET ならではのものです、これから益々の国際的展開が楽しみです。

- 古西 勇 (公社) 日本理学療法士協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



JANNET はネットワーク、つまり網目のように流れやつながりがあるものです。会員の団体や個人を節点として、最新の情報の流れを提供します。今後も、多くの人々のつながりを強め、力を結集させる、活きたネットワークとしての発展を願います。

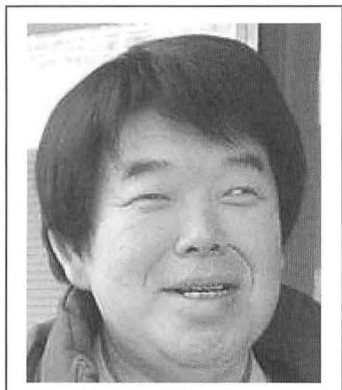
- 伊藤 智典 (公社) 日本理学療法士協会/JANNET 広報・啓発委員会 委員



20 周年の記念すべき時を皆様と迎えることができ、心から嬉しく思います。これからも広報啓発委員会の 1 人として「万人の為の社会」のため、より一層、邁進してまいります。まずは 2015 年に東京で開催予定の第三回アジア太平洋 CBR 会議ですね。頑張ります！

現役員(つづき)

● 安川 雄二 きょうされん／JANNET 監事



東日本大震災やタイの大洪水など地球規模での天災が続いており、その度に障害のある人々が大きな困難を背負わされています。このような時期だからこそ、障害分野の NGO 組織の連携を深めていくことが重要だと思います。

● 小池 宏美 (公社) 日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS) ／JANNET 監事



設立 20 周年をととても嬉しく、心強く思います。障害のある無しに関わらず、すべての人々が互いを尊重し、支え合って暮らす社会を作ることを目指し、今後も活動の一端を担わせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

前役員、事務局長

- 田中 徹二 （社福）日本点字図書館／前 JANNET 副会長



日本点字図書館の国際協力事業も、JANNET と同じく 20 年になりました。東南アジア、太平洋地域の視覚障害分野では、この事業から各国のリーダーになる人が現れていてうれしい限りです。

- 沼田 千好子 （公社）日本発達障害連盟／前 JANNET 研修・研究委員会 副委員長



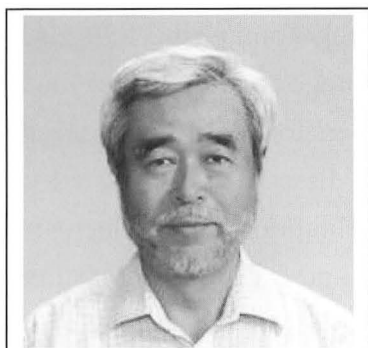
私にとり、JANNET は CBR の入口でした。それから 20 年、CBR を学び、批判し、そして今は、基礎理念に還って地域の人たちと活動をしています。JANNET に感謝です。

- 上野 悦子 （公財）日本障害者リハビリテーション協会／JANNET 事務局長



日頃より JANNET の活動にご参加、ご関心をお寄せいただき感謝申し上げます。CBR が目指す、障害がインクルーシブな開発で欠かせないことの一つは多分野、多職種間での連携です。今後も新たな方、多くの皆様とつながりを持てるような場作りを進めてまいります。これからもご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。

●大橋 正明氏 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 理事長



日本の障がい分野に関わる NGO35 団体をネットワークされている JANNET の創設 20 周年を、国際協力 NGO のネットワーク JANIC を代表して、お慶び申し上げます。

これまでの JANNET の積極的な活動は、日本の NGO のみならず、政府による国際協力の質を相当程度高めてきている、と常々実感しています。例えば「障がいと開発」において、CBR、障がいのある人の権利に関する条約、そしてインチョン戦略等を普及し、NGO や国際協力関係者の知見や意識を高め、それらを実践することに、JANNET は多大な貢献をしてきました。2015 年以降のグローバルな開発目標（ポスト MDGs や SDGs）に関する現在進行中の国際的な議論に、障がいが確実に含まれる見込みであることも、JANNET の活動の成果の一つだと理解しています。

こうした大切な活動を、今後も継続する、より正確には一層発展させていくことを心から期待しています。

(2013 年 10 月)

JANNET とのかかわり

大橋正明氏 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター (JANIC) 理事長

JANIC はあらゆる専門領域での国際協力に携わる NGO を支援する NGO です。JANNET は 2008 年から正会員になったことで、障害以外の様々な国際交流や国際協力活動で活動する団体との交流の機会が増えました。2011 年 10 月には、JANIC のアカウントビリティ・セルフチェックを受けて承認されました。障害分野に理解を示して下さり、様々な支援をしてくれるありがたい存在です。

- マヤ・トーマス氏 ; Dr. Maya Thomas, Disability, CBR and Inclusive Development, Editor.



My congratulations to JANNET on the publication of the 100th issue of the E-Magazine! It has been a great privilege and honour for me to have been associated with JANNET members for more than a decade, on capacity building and information dissemination related to disability, community based rehabilitation and inclusive development. In a field where networking and exchange of resources are key to growth and development, the efforts of JANNET are highly laudable. The 100th issue of the E-Magazine is a great milestone to have reached, and my good wishes are with JANNET as they continue their efforts in the future.

マヤ・トーマス博士、「障害、CBR とインクルーシブな開発」編集長、インド

第 100 号メールマガジン発行に際して、JANNET へ私の祝辞を述べさせていただきます！
障害、地域に根ざしたリハビリテーション（CBR）とインクルーシブな開発に関連した、キャパシティ開発と情報の普及に関して、私が 10 年以上の間 JANNET のメンバーと関係していたことは、大きな特権と名誉でありました。情報資源のネットワークとやり取りが組織の成長と発達への鍵である分野において、JANNET の努力は、非常に賞賛に値します。メールマガジン第 100 号は、到達した大いなるマイルストーンです。そして、将来もその努力を惜しまないであろう JANNET に私は親愛感を持ち続けます。

(2011 年 11 月)

JANNET とのかかわり

マヤ・トーマス博士、「障害、CBR とインクルーシブ開発」編集長、インド

CBR では世界的に著名なマヤさんは 2002 年と 2003 年に国際会議での講演のため来日しました。2003 年には JANNET の研修会にお招きし、CBR に関するシャープな課題提示と示唆に富んだ講演をしていただきました。また、2010 年にインドのバンガロールで CBR を学ぶ現地研修会では、研修受け入れ先のご推薦等企画に関してご協力をいただきました。

● ノーマン・カーン氏 ; A. H. M. Noman Khan,

Centre for Disability in Development (CDD), Executive Director.



On behalf of Centre for Disability in Development (CDD), I congratulate the Japan NGO Network on Disabilities (JANNET) for the hundredth anniversary of producing email magazines. The JANNET has been proactive to promote the rights of persons with disabilities since 1993. The JANNET continually supports to develop capacity of various organizations through exchanging information and other related cooperation.

CDD deeply appreciates for the tremendous efforts of JANNET to produce monthly email Magazine regularly. We expect that the JANNET will continue its support promoting the rights of persons with disabilities through creating opportunities of sharing relevant information, concepts and research findings.

A. H. M. ノーマン・カーン、開発における障害センター（CDD）、理事長、ダッカ、バングラデシュ

開発における障害センター（CDD）を代表して、障害関連 NGO 連絡会（JANNET）がメールマガジンの第 100 号発行の記念日に際して私から祝詞を述べさせていただきます。JANNET は、障害のある人の権利を促進するために 1993 年より主導的な役割を果たしてきました。いろいろな組織が、情報と協力の絶え間ない交流を通じて、JANNET により支えられ、キャパシティを向上させています。毎月、定期的にメールマガジンを発行している JANNET の素晴らしい努力に対して、CDD は深く感謝します。我々は、適切な情報と概念、調査結果を共有する機会を生み出すことを通して障害のある人の権利を促進している、その支援を JANNET が続けていくことを期待します。

(2011 年 11 月)

JANNET とのかかわり

A.H.M.ノーマン・カーン、開発における障害センター（CDD）理事長、ダッカ、バングラデシュ

CDD と JANNET の関わりは 2005 年にナズムル・バリさんの講演会、2007 年にはアビディン・カーンさん、そして 2008 年にはノーマン・カーさんご自身にご講演いただきました。2008 年には CDD の全面的なご協力によりバングラデシュのコミュニティ活動を学ぶ現地研修会を実施しました。2010 年にマグサイサイ賞を受賞されたことは大変うれしいニュースでした。

● アルビナ・シャンカー氏 ; Albina Shankar, Mobility India, Director.



Congratulations on the 100th Email-magazine!!!

Mobility India (MI) was honored to interact and share with the members of Japan NGO Network on Disabilities (JANNET) when they chose to visit a few NGO's in Bangalore implementing community based activities for people with disabilities (CBR).

MI's experience of implementing CBR programmes provides practical lessons learned and methods to the wider development and highlighted that CBR need to be implemented through the combined efforts of people with disabilities themselves, their families, and their organisations as primary stakeholders with a multi sectoral approach. This approach seeks to ensure that all individuals are supported in their own communities, enjoy equal rights and opportunities as other members in the society.

We had a very good sharing and learning of experiences with Ms. Etsuko Ueno, Ms. Chiyoko Numata and their team members. It was nice to have these interactions and work collaboratively to bring our learning to strengthen the larger Asia-Pacific Network so that many organisations benefit in making a change for an inclusive society for people with disabilities. Congratulations on the 100th Email-magazine!!!

アルビナ・シャンカー、モビリティ・インディア所長、インド

第100号のメールマガジン、おめでとうございます!!! モビリティ・インディア (MI) は、障害関連 NGO 連絡会 (JANNET) のメンバーがバンガロールで障害のある人たちのための地域に根ざした CBR の活動を行っているいくつかの NGO を訪れることとした際に、光栄にも対話と情報の共有を行うことができました。MI は CBR プログラムを実施してきた経験から、実際に学んだことと手法を、より広く開発に提供します。そして、JANNET の皆さんに強調させてもらったのは、CBR は、障害のある人たち自身と彼らの家族、彼らの組織が、主要なステークホルダーとして、力を合わせることを通して多領域アプローチにより実施される必要があるということです。このアプローチは、全ての個人が彼ら自身のコミュニティで支えられて、社会の他のメンバーと対等の権利と機会を享受することを確実にしようとするものです。バンガロールの私たちを訪れてくれた上野さんと沼田さん、他の同行者の皆さんに接して、大変よい情報交換と経験の共有ができました。これらの対話を持てたことは嬉しいことでした。そして、障害のある人たちのためのインクルーシブな社会への変化において多くの組織が恩恵を受けられるように、アジア太平洋におけるより大きなネットワークを強化するために私たちが学んだことを持ち寄り、協力して働くということは素晴らしいことです。第100号のメールマガジン発行、おめでとうございます!!!

(2011 年 11 月)

JANNET とのかかわり（前ページ）

アルビナ・シャンカー、モビリティ・インディア所長、インド

マヤ・トーマスさんのご紹介で、2010年にインド、バンガロールにおける JANNET 研修会でご協力いただきました。同団体が貧困削減にも取り組んでいるお話を伺い、都市スラムでの CBR プログラム見学をアレンジして下さいました。2012年にインドで開催される、第一回グローバル CBR 会議開催では事務局の重責を担われます。

● 熊田 芳江氏 社会福祉法人 こころん施設長



「住み慣れた地域で働き暮らしたい」という当たり前のことが、障害や病気、地域格差や貧困などによって保障されない人々への支援を続けてこられた JANNET の活動に大変頭の下がる思いです。

今年の3月私たちが住む東北地方は、1000年に一度という地震と津波によって多くの人々の命が奪われました。そのうえに福島は原子力発電所の爆発による甚大な被害が加わり、人類がこれまで経験したことのない災害に見舞われました。

「こころん」ではお見舞いのメッセージや義援金など全国のたくさんの方から大きな力を頂き、心から感謝いたします。

放射能による被害はまったく実態がありません。どこまで危険なのか、情報だけが右往左往しています。しかし怖いのは風評被害です。何気ない言葉が当事者にとっては大きな傷となり、恐怖となって復興を妨げます。

私たちは体験しました。差別や偏見はどんなところにも存在すること、そしていつその立場が逆転するのかわからないこと、暖かい愛ある言葉や行動が大きな力になること。

JANNET の活動はこうした社会的偏見によって作られた障害や地域格差を、その地域に住む人々の暮らしに合った社会を取り戻すための活動であり、皆さんの活動は支援を受けられた人々の大きな力となりすばらしい活動に発展しています。

皆様の安全を願い、志の高い皆様と出会えたことに感謝しています。

（2011年11月）

JANNET とのかかわり

熊田芳江氏 社会福祉法人 こころん施設長

福島県泉崎村にあるこころんとは就労関係の国際研修で受け入れていただいたことが縁で、2009年には JANNET 研修会で訪問し、地域づくりと障害者支援を統合した活動を学ぶ機会になりました。CBR ガイドラインに日本の好事例として紹介されています。2011年3月11日の東北大震災と福島原子力発電所の事故の影響について JANNET 総会でもお話いただきました。

● 研修会・研究会一覧

開催年月日	テーマ	講師	講師の所属等
研修会			
2001 年 1 月 28 日	CBR キャパシティ・ビルディングセミナー -地域参加型リハビリテーションの理解と実践-	渡邊雅行	日本 CBR ネットワーク
2002 年 1 月 20 日	貧困と参加「力の剥奪 (deprivation) から「非排除型 (inclusive) 開発へ	穂坂光彦	日本福祉大学経営学部
2003 年 8 月 27 日	CBR (地域に根ざしたリハビリテーション) - 現在の傾向および将来への試みに関する議論	マヤ・トーマス	障害政策アドバイザー
2005 年 3 月 6 日	精神障害と国際協力	蟻塚亮二	精神科医
6 月 26 日	ネパールの農村に暮らして	垣見一雅 (OK バジ)	
2008 年 3 月 1-5 日	「開発における障害」バングラデシュ現 地研修会	ノーマン・カーン他	CDD (開発における障害 センター)
2009 年 3 月 10-11 日	福島県泉崎村における地域おこしと障 害者支援	熊田芳江	NPO (現在社福) こころん 施設長
2010 年 1 月 16-23 日	インド、バンガロールにおける CBR 現 地研修会	マヤ・トーマス アルビナ・シャンカー ラマ・チャントルー	Mobility India BasicNeeds
研究会			
1994 年 6 月 20 日	カンボジアの現状と協力活動 ①農村の現状と課題 ②車いす関連活動について ③義肢に関する NGO の動き	サリン・キム、ホン・アン 小松博史 澤村誠志	アジア保健研修所 難民を助ける会 国際義肢装具連盟 (ISPO)
1995 年 1 月 17 日	インドネシアでの活動		

	①CBR 研修事業 ②CBR 創業者ワークショップへの協力 ③日本理学療法士協会の活動 ④ソロ・リハビリテーションセンターへの協力を中心に	星野侃司 津山直一 久野研二 松井亮輔	こども未来財団 日本障害者リハビリテーション協会 日本理学療法士協会 日本障害者雇用促進協会
6 月 8 日	CBR について ①CBR 研究－歴史と今日的課題 ②概念と実践	小林明子 中西由起子	国際 CBR 研究会 アジア・デイスアビリティ・インスティテート
12 月 5 日	職業分野における CBR ①インドネシアの体験から ②フィリピン ネグロス島における CBR	丹羽 勇 中西由起子	元 ILO アジア・デイスアビリティ・インスティテート
1996 年 5 月 27 日	NPO 法案の概要・今後の動き 民間団体にとっての NPO 法案の役割	松原 明 中西正司	市民活動を支える制度を作る会 ヒューマンケア協会
12 月 16 日	「障害分野における研修活動の評価を考える」加盟団体よりの報告 ①アジア・デイスアビリティ・インスティテート ②日本キリスト教奉仕団－アガペー身体障害者作業センター ③日本理学療法士協会 ④日本発達障害福祉連盟	池住義憲 中西由起子 飯島蘭子 小林義文 沼田千好子	アジア保健研修所
1997 年 6 月 3 日	「障害分野における研修活動の『評価』を考える PartⅡ」－ラオスでの住民参加型農村開発における『評価』の試み	磯田厚子	日本国際ボランティアセンター
12 月 11 日	報告： ①JICA の国民参加型協力推進調査「障害者の国際協力への参加」 ②全日本ろうあ連盟の国際協力活動 ③日本点字図書館の国際協力活動 ④国立リハセンターにおける国際協力活動	岩波和俊 大槻芳子 田中徹二 植村英晴	JICA 東京国際研修センター 全日本ろうあ連盟 日本点字図書館 国立リハセンター国際協力室
1998 年 6 月 15 日	「国際障害分類（ICIDH）東京改定会議について」	佐藤久夫	日本社会事業大学
11 月 17 日	設立 5 周年記念セミナー 「21 世紀における CBR と国際協力」	デビッド・ワナー	プロヒモ（米国）

1999 年 6 月 7 日	今後の障害分野における協力事業の展開－助成のあり方をめぐって	松井亮輔	JANNET 会長 (北星学園大学)
2000 年 1 月 17 日	「よりよい NPO 活動をめざして」 「NPO 法成立後の NPO 活動」 「JICA の NGO 支援に関する 2 つの新しい援助計画（開発福祉支援事業、開発パートナー事業）」	松井亮輔 松原 明 山内康弘	JANNET 会長 市民活動を支える制度を作る会 JICA 国内事業部国内連携課
6 月 5 日	IT 革命は社会をどう変えるか－国際協力活動への影響	河村 宏	日本障害者リハビリテーション協会情報センター
2001 年 1 月 9 日	開発と評価	源 由理子	アース仏教国際協力ネットワーク
6 月 25 日	ICIDH 改訂について	上田 敏	WHO 国際障害分類日本協力センター、日本障害者リハビリテーション協会
2002 年 5 月 14 日	東チモールの障害者の現状を聞く会	長田こずえ	国連 ESCWA（西アジア経済社会委員会）
6 月 2 日	CBR における主体的参加型村落評価法（PRA）の実践	大澤諭樹彦	秋田大学医療技術短期大学理学療法科
2003 年 2 月 15-16 日	ワークショップ「CBR の国際的動向」	マルコム・ヒート ジェーン・エドモント	カナダ・クィーンズ大学
3 月 8 日	JANNET 幹部合宿 「設立からこれまでの振り返りと今後の課題をどう発展させるか。」	池住義憲	
6 月 8 日	「戦争と障害」－会員団体によるアフガニスタン、カンボジアにおける地雷除去や地雷撲滅キャンペーンについて	紺野誠二 加藤美千代 北川泰弘	難民を助ける会 JCBL プノンペン一会
10 月 25 日	プロヒモ CBR 見学報告会	田口順子	日本理学療法士協会
2004 年 1 月 18 日	世界の活動報告 ①コソボからの報告 ②フィリピンからの報告 ③エジプトからの報告	高松美穂 吉田美穂 沼田千好子	日本理学療法士協会 日本作業療法士協会 日本発達障害福祉連盟

	④飛騨高山市のバリアフリー観光の取り組み	上野悦子	日本障害者リハビリテーション協会
6月6日	国際障害 NGO の目指すこと ー障害者権利条約制定に向けてー	中西由起子 小椋武男 松友 了 指田忠司 松井亮輔	アジア・ディズアビリティ・インスティテート 全日本ろうあ連盟 全日本手をつなぐ育成会 日本盲人会連合 日本障害者リハビリテーション協会
6月6日 (上記研究会直後に開催)	ネパールにおける障害者エンパワメントの現状と課題	渡邊雅行およびネパールの関係者	日本 CBR ネットワーク
2005 年 1月22日	アフリカのコミュニティと障害者 ①アフリカへの国際協力の現状 ②村落開発普及員としての体験報告 in アフリカ ③作業療法士としての体験報告 in マラウィ	鍋屋史朗 星野明彦 河野 真	JICA 東京国際センター JICA 無償資金協力部 国際医療福祉大学
11月5日	「開発への障害のインクルージョン」 ①障害と貧困ーCBR のダイナミックス ②開発への障害のインクルージョン、 バングラデシュ ③開発への障害のインクルージョン、フィリピン	長田こずえ ナズムル・バリ ベンジヤミン・ゴビン	国連 ESCAP 社会問題担当 CDD (開発における障害 センター) ハンディキャップ・インターナショナル
2006 年 1月21日	「CBR の課題への取り組み」 ①カナダにおける CBR 人材養成コース ①CBR の持続性を考えるーインドネシア、ソロの実例	高松美穂 大澤諭樹彦	郡山健康科学専門学校 秋田大学医学部保健学科
8月26日	アジアの視覚障害者との交流	田中徹二 アジアの視覚障害者	日本点字図書館
9月3日	開発の開発へのインクルージョン活動 ー南アジアを事例にー	下澤 嶽 沼田千好子 上野悦子	国際協力 NGO センター 日本発達障害福祉連盟 日本障害者リハビリテーション協会
2007 年 7月19日	カンガ国内および世界の地雷問題の現状	マカレット・オリク	ULSA (カンガ地雷生存者協会)

10月9日	開発における障害－バングラデシュを深める－	アビディン・カーン	CDD（開発における障害センター）
11月19日	障害の開発へのメインストーリーミングをテーマとする意見交換会	長田こずえ	国連開発政策課シニアマネージメント担当
2008年	JANNET 翻訳『CBR』に基づく「CBRと開発」の勉強会 I		
6月16日	第一回 11章「政策・戦略、サービス事業」	山崎真由美	アジア保健研修所
8月4日	第二回 1-4章	田口順子	日本理学療法士協会
9月23日	第三回 8章「教育」	古西 勇	新潟医療福祉大学
12月22日	第四回 10章「研究」	河野 真	国際医療福祉大学
2009年			
2月2日	第五回 7章「評価」	沼田千好子	日本発達障害福祉連盟
	「CBRと開発の勉強会」II		
7月11日	第一回 バングラデシュにおける開発の経験から障害を考える	白幡利雄	シャプラニール＝市民による海外協力の会
10月11日	第二回 ウズベキスタンでの事例から CBR の課題を学ぶ	河野 真	国際医療福祉大学
2010年			
8月27日	「開発途上国の被災者のために私たちができること－災害による障害者に対する CBR を通じた支援」	阪本真由美 ワシ・カリ 野際紗綾子	人と防災未来センター 理学療法士、インドネシア 難民を助ける会
2011年			
8月1日	CBID、CBR ガイドラインの概要	上野悦子	日本障害者リハビリテーション協会
9月5日	2010年 CBR ガイドライン会議報告会	平本 実 野際紗綾子	ワールト・ビジョン・ジャパン 難民を助ける会
10月29日	日本の地域福祉と CBID/CBR－街ぐるみの包括的福祉に向けて－	戸枝陽基 ファシリテーター： 石本 馨 清水香子	NPO ふわり・社福むそう 日本福祉大学 アジア保健研修所
2012年			
2月29日	スリランカの CBR - CBR マトリックスで見てみよう！ -	加藤尚子 リソース・パーソン： 尻無浜博幸 鈴木直也	作業療法士 松本大学 NPO 起業支援ネット
8月25日	第一回コミュニティにおけるインクルーシブ開発（CBID）検討会 『日本から世界へ ～日本の地域実践例』	発表者： 上野悦子 今西浩明	JANNET 事務局 ワールト・ビジョン・ジャパン

	を CBR マトリックスで読み解きます ～』	林 かぐみ 河野 眞 宮前ユミ 宮本亮平	アジア保健研修所 日本作業療法士協会 笹川記念保健協力財団 個人会員・武蔵野市役所
12月8日	第二回コミュニティにおけるインクルーシブ開発 (CBID) 検討会 『日本から世界へ ～日本の地域実践例を CBR マトリックスで読み解きます～』	事例紹介： 尻無浜博幸 発表者： 河村サユリ 鈴木千鶴 河野 眞 伊藤智典	松本大学 南太平洋医療隊 南太平洋医療隊 日本作業療法士協会 日本理学療法士協会
2013年 2月25日	CBR ガイドラインまとめの検討会	進行： 河野 眞	日本作業療法士協会
7月10日	「障害インクルーシブ開発、バングラデシュでの進展」～障害のある人の暮らしやコミュニティはどう変わったのか？～	ナズムル・バリ	CDD (開発における障害センター)、バングラデシュ
共催イベント			
2001年 10月12日	CBR 講演会「障害をもつ人の地域参加と自立」 共催：アジア保健研修所、名古屋大学、日本 CBR ネットワーク	マラモ・スキルマン 石本 馨 渡邊雅行	CBR 開発研修センター、インドネシア 日本福祉大学 中部学院大学
2010年 2月15日	南インドネシアラジャワラ州における障害者の貧困削減事業：障害者の自助グループとその連合体の構築 共催：世界銀行情報センター (PIC 東京)	高嶺 豊 ラル・ダス チャパル・カスナビス 他	琉球大学 アールエム単科大学 WHO 障害とリハビリテーション部門
11月1日	視覚障害分野の開発プロジェクトーデンマーク盲人協会の経験よりー 共催：世界銀行情報センター (PIC 東京)	ジョン・ハイルブラン他 コーディネーター： 田畑美智子	デンマーク盲人協会副会長 日本盲人会連合
2013年 6月16日	「隔離」から「共生」へ ハンセン病療養所の「内」と「外」から社会を変える	ハンセン病首都圏市民の会代表 他 5 名	

	共催：IDEA ジャパン、笹川記念保健協力財団	コーディネーター： 笹川記念保健協力財団	
10 月 27 日 (予定)	第 2 回研究会 ポスト MDGs と障害で話題の「障害インクルーシブな開発とは？」 共催：国際開発学会社会連携委員会	アルビナ・シャンカー 渡辺ゆりか	Mobility India 草の根ささえあいプロジェクト

● JANNET 刊行物一覧

	書名	刊行年	販売価格
1.	JANNET 設立 5 周年記念セミナー ー 21 世紀における CBR と国際協力ー (1996 年) 報告書	1998	
2.	JANNET 研修会 : CBR キャパシティ・ビルディングセミナー報告書	2001	
3.	研修会報告書「福祉と開発の接点」報告書	2002	
4.	研修会「CBR の最近の動向について」報告書	2004	1,000 円
5.	ワークショップ「CBR の国際的動向」報告書	2006	1,000 円
6.	研修会「ネパールの農村に暮らして」報告書	2005	500 円
7.	研究会「開発への障害のインクルージョン」報告書	2005	1,000 円
8.	JANNET 十年の歩み	2006	
9.	研修会「開発と障害ー南アジアの NGO から学ぶ」報告書 (日本障害者リハビリテーション協会共催)	2007	
10.	『CBR 地域に根ざしたリハビリテーション：障害のある人の完全参加を目指すシステムづくり』 マルコム・ピート著“CBR”の翻訳 明石書店	2008	2,400 円
11.	福島県泉崎村「こころん」現地研修会報告書	2009	500 円
12.	研究会「開発途上国の被災者のために私たちができること ー災害による障害者に対する CBR を通した支援ー報告書	2010	1,000 円

JANNET 団体会員リスト

(2013 年 10 月現在)

1. アジア・ディスアビリティ・インスティテート
 2. アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)
 3. (公財)アジア保健研修所 (AHI)
 4. (NPO)FHCY アジア障害者パートナーズ
 5. きょうされん
 6. (社福)国際視覚障害者交流・協力ネットワーク (JIBEC)
 7. 国際 CBR 研究会
 8. (公財)笹川記念保健協力財団
 9. (NPO)さをりひろば
 10. (NPO)シャプラニール＝市民による海外協力の会
 11. (社福)全国盲ろう者協会
 12. (一財)全日本ろうあ連盟
 13. (社福)東京ヘレン・ケラー協会
 14. (NPO)難民を助ける会 (AAR JAPAN)
 15. (社)日本義肢協会
 16. (公社)日本キリスト教海外医療協力会 (JOCS)
 17. (社福)日本キリスト教奉仕団 アガペセンター・アガペ交換研修プログラム
 18. (一社)日本作業療法士協会
 19. 日本 CBR ネットワーク
 20. (公財)日本障害者リハビリテーション協会
 21. (NPO)日本せきずい基金
 22. 日本地域共生協議会
 23. (社福)日本点字図書館
 24. (公社)日本発達障害連盟
 25. (NPO)日本ポーターズ協会
 26. (社福)日本盲人会連合
 27. (社福)日本盲人職能開発センター
 28. (社福)日本ライトハウス
 29. (公社)日本理学療法士協会
 30. ひまわりの会
 31. (NPO)ヒーリングファミリー財団
 32. ベトナムの子ども達を支援する会
 33. 南太平洋医療隊
 34. (NPO)ワールド・ビジョン・ジャパン
- 【賛助会員団体】
35. (公財)ダスキン愛の輪基金

個人会員数:56 名

JANNET20 年の歩み
障害分野における民間団体ネットワークの活動の記録 1993-2013

2013 年 10 月

【企画・製作】 JANNET(障害分野 NGO 連絡会)／広報啓発委員会

【お問い合わせ】 JANNET 事務局

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1

TEL: 03-5292-7628

FAX: 03-5292-7630

URL: <http://www.normanet.ne.jp/~jannet/>

JANNET (障害分野NGO連絡会)

2013